

5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (甲信越)	◎	その他サービス 〔葬祭業〕（経営者）	お客様の様子	・ 今月は問い合わせが多く、今までにないほどの件数になりそうである。
	○	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・ ピーク時間帯の来客数が増える傾向にある。
	○	タクシー（経営者）	来客数の動き	・ 一部の観光地で、インバウンドの増加が確認できている。
	○	観光名所（職員）	来客数の動き	・ この冬は近隣から流れてくるインバウンドのスキー客が多く、街中、特に駅前周辺の宿泊施設や飲食店がにぎわっている。首都圏から直通の特急も乗車しているのはほぼ外国人である。
	○	その他レジャー施設 〔ボウリング場〕（経営者）	来客数の動き	・ 年始や週末はファミリーや若年層が多く、前年より来客数が増えている。平日の夜も若者を中心に増えている。
	□	商店街（代表者）	お客様の様子	・ 1月は正月があったが、平日とほとんど変わらなかった。客の多くが大型店に行ってしまうと、昔からの商店街には客は来なくなっている。
	□	一般小売店〔家電〕（経営者）	お客様の様子	・ 全体的に商材の動きは依然として良くない。2027年の省エネ法改正を見越したLED照明器具や安価なエアコン等への問合せや引き合いが出てきている。成約になっても、今までの売上の穴埋めにはまだ足りない状況が続く。
	□	百貨店（店長）	来客数の動き	・ ここにきての天候不順や、この時期は消費の動機付けとなるものが少ないこともあり、消費に勢いが無い。世間の情勢から考えても変わらないとみている。
	□	スーパー（経営者）	来客数の動き	・ 大雪の影響により、客が近くの店舗を利用するため、来客数は増えている。ただし、除雪費用が心配である。
	□	スーパー（経営者）	販売量の動き	・ 前年比では売上は13%増加し、来客数は3%減少している。1月は三が日の1～3日は店舗を閉めたが、ちゅう房業務はフル稼働しており忙しかった。週末も新年会の注文がたくさん入り、売上が増加している。
	□	スーパー（店長）	来客数の動き	・ 来客数の減少、買上点数の増加傾向は変わらない。セール日を中心に、一度にまとめて購入する傾向である。
	□	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・ 今年は例年にないほど朝晩非常に寒く、客足が極端に悪い。売上は前年と同じくらいで、上回ることはない。
	□	コンビニ（店長）	販売量の動き	・ 年末年始辺りから、時間帯による来客数が変動している。ふだん売れていた時間帯が若干良くない状態になっているが、理由がよく分からず、厳しい。
	□	家電量販店（店長）	来客数の動き	・ 継続的に、来客数が前年を割り込んでいる。
	□	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・ 車検、一般整備のサービス部門は目標をクリアしているが、車両販売、特に新車販売では、諸経費を含めた乗り出し価格が非常に高くなっていることから、購入できる客と諦める客の格差が生じて、厳しい状況にある。
	□	自動車備品販売店（従業員）	来客数の動き	・ 売上は前年並みで、物価高の分やや上昇しているものの、来客数は前年の95%程度と伸びていない。
	□	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・ 例年1月は来客数が少ないが、特に天候が低温続きでかなり影響している。また、突然の衆議院選挙の影響も少なからずある。
	□	スナック（経営者）	来客数の動き	・ 宴会の動きは前年より良いものの、個人客は非常に少ない。自転車の飲酒運転の取締りが厳しくなって以来、個人客はずっと落ち続けているので、このまま戻らないとみている。その分、複数人でまとまって飲む機会が増えているのかもしれないが、今後どうなっていくか全く分からない。

	□	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・悪天候の予報等や実際に週末の天候が崩れたことで、人の動きが大きく減少したが、天候要因を除けばさほど変化のない状況である。
	□	旅行代理店（副支店長）	販売量の動き	・燃油価格高騰や物価上昇は解消されていないため、旅行意欲は低迷している。また、為替変動により海外旅行の販売量は少ない。年末年始も安近短や自宅で過ごす傾向がみられる。
	□	タクシー運転手	販売量の動き	・乗務員が退職しても新規に入社しないため、乗務員不足により、特に夕方から夜間の時間帯に、タクシー不足となっている。
	□	通信会社（社員）	販売量の動き	・来期以降の更なるサービス提供エリア拡張で、将来的な上積みは期待できるが、直近での好材料は見当たらない。
	□	通信会社（社員）	来客数の動き	・不透明感は相変わらずで、衆議院選挙で良い方向になるとは考えにくい。
	□	遊園地（職員）	来客数の動き	・1月の連休は最大の寒波予報と強風の影響により、入園者数の伸びは限定的となったものの、新企画の開始により、アジア圏の団体予約が入り始めている。
	□	ゴルフ場（経営者）	それ以外	・ゴルフ場が冬季クローズ中のため景気の良しあしはつかみにくい。周辺では身売りのような地域中小企業のM&Aなどの話も聞いている。地域のことは地域の中小企業が守るべきと考えるが、外資に売却された会社では、地域の社員が辞めている状況である。
	□	ゴルフ場（副支配人）	単価の動き	・物価が上昇しているものの、平日の予約状況や来場時の購買の様子からも、プレー費を上げることは困難である。また、食事や土産への支出も伸びていない。
	▲	商店街（代表者）	お客様の様子	・正月も終わり、毎週末悪天候が続いたこともあって、客足が悪い。
	▲	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・1月に関しては連休も多く、売上、来客数共に減少傾向である。天候にも左右されるため、当店の景気としては下降気味である。
	▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数が減少している。特に、夕方以降が顕著である。
	▲	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新車需要期に新型イベントが重なっているが、受注は伸びてこない。新車価格が上がっていることが影響している。
	▲	その他専門店〔酒〕（店長）	お客様の様子	・売上自体は前年と比べても伸びているが、1月中旬以降、客の様子が急激に悪くなっているため、今後も余り良くない。客が何を捉えて悪くなっているのかは分からないが、明らかに様子が変わっている。値上げや物価に対する敏感な反応ではないかと考えている。
	▲	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・物価対策が功を奏していない。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街を歩く人影は通勤時間帯を除けばほとんどない。当然ながら、自助努力の大切さを実感している。
	×	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・物価高、エネルギー価格高騰、過度な円安の悪影響等が、客の様子からうかがえる。
	×	その他飲食〔カフェ〕（経営者）	来客数の動き	・物価高のため、来客数の動きが悪くなっている。
	×	観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・年末年始は9連休でこの期間はかなり良かったものの、正月明けから苦戦している。要因は中国、香港からのインバウンドの不調である。冬季は国内の旅行需要が減少する一方、春節などでインバウンドの需要が増え、売上に占めるインバウンドの割合は10%強に達するため、ダメージが大きい。降雪が少ない地域だが、大雪の報道が続いているからか、首都圏からの客の動きも低調である。
	×	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・3か月前は行楽シーズンで、非常に客の動きも良かった。今月は季節要因もあるが、来客数の落ち込みが非常に激しかった。週末の大雪で団体利用が2件キャンセルになり、個人客のキャンセルも発生している。
企業 動向	◎	—	—	—
	○	*	*	*

関連 (甲信越)	□	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・1月の受注や販売量は12月と余り変わらないが、先の受注量が減少しており、見込みが立たない。
	□	金融業（調査担当）	取引先の様子	・製造業の業況感は、米国の関税引上げの影響が想定よりも大きくなかったことや円安の恩恵を受けた企業もあり、弱いながらも持ち直している。非製造業は、観光関連は順調ながら、コスト高の影響が広がり、消費者の節約意識の高まりもあって業況感は低下している。
	▲	食料品製造業（製造担当）	受注量や販売量の動き	・スーパーでの販売量が減少している。
	▲	食料品製造業（営業統括）	受注価格や販売価格の動き	・低コストで利益率の低い商材には、引き合いが何とかあるものの、付加価値の高い商材は厳しい状況である。
	▲	窯業・土石製品製造業（経営者）	取引先の様子	・特注品の受注予定はあるものの、試作品製作等で時間を取られ、生産が進んでいない。
	▲	電気機械器具製造業（従業員）	取引先の様子	・大手部品納入業者の話では、今後景気が悪くなるという業者が非常に多いとのことである。
	▲	その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・1月に入ってから更なる地金の高騰で、展示会では地金が安いときに制作して売れ残っていたようなお買い得な商品を買って求める客が多かった。売上は前年比30%増加となっているものの、状況は厳しい。
	▲	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・工事の受注量が伸び悩んでいる。
	×	*	*	*
雇用 関連 (甲信越)	◎	—	—	—
	○	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・長期的かつ慢性的な人手不足が県内経済に与える影響は決して小さくない。為替相場の動向や輸出を主軸とする各産業の事業所等では収益に対する不透明感を払拭できず、地元企業から、攻めの経営戦略が立てにくいという声も聞かれる。
	□	人材派遣会社（営業担当）	それ以外	・全てにおいて後退している状況は変わらない。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数について、過去1年の前年同月比でみても、大きな動きはない。
	□	民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・求人をつねにけん引する製造業において、現場作業の求人は多いが、新規のもの作りに関わる開発等の求人は少なく、将来が不安視される。
	▲	職業安定所（職員）	求人数の動き	・当所管内の12月の有効求人倍率は1.40倍となり、前年同月比で0.06ポイントの下降となっている。月間有効求人倍率が前年同月を下回るのは20か月連続となっている。
	×	—	—	—